<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

株式会社フィールズ

② 施設・事業所情報

名称：明日葉保育園大倉山園	種別：認可保育所	
代表者氏名：原川教子	定員（利用人数）：60名(58名)	
所在地：〒222-0037 横浜市港北区大倉山1-15-21		
TEL：045-642-3561		
ホームページ：https://www.ashita-ba.jp/hoiku/ookurayama/		
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2018年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社あしたばマインド		
職員数	常勤職員： 14名	非常勤職員： 14名
専門職員	（専門職の名称） 名	
	保育士（常勤：12名、非常勤：7名）	看護師（非常勤：1名）
	栄養士（常勤：1名、非常勤：2名）	調理師（常勤：1名）
施設・設備の概要	（居室数）保育室：6室、事務室、調理室、更衣室	
	（設備等）トイレ（乳児用トイレ2、幼児用トイレ、多目的トイレ）	

③理念・基本方針

【保育理念】

「こどもの明日を育み、今日を支える」

明日葉の花言葉は「旺盛な活動力」。

私たちは子どもが毎日を豊かに過ごせる保育を通じて、

明日をたくましく生きる力を育みたいと考えます。

そして、子どもの健やかな成長を願うご家庭と地域社会との

コミュニケーションを大切にして、より良い今日をサポートします。

【保育方針】

子どもが、今日を最もよく生き、望ましい「明日」を創り出す力の基礎を培う。

【保育目標】

- ・自分も人も尊重できる子ども
- ・自分で考え正しいことを選びとれる子ども
- ・心も体もすこやかな子ども
- ・思いを適切に表現できる子ども

③ 施設・事業所の特徴的な取組

- ・家庭と同じような安心感を持ち過ごせるようにしている。
- ・日々の遊びの展開は子どもの興味や発想から広げている。（ハロウィンパーティーや節分会などは行事として捉えるのではなく、子どもたちの発想で企画し開催している。）
- ・行事については当日を見据えるのではなく、過程を楽しむことを大切にしている。（子どもが興味を持ったごっこ遊びからお楽しみ会に繋げるなど）
- ・食育は栄養士だけで企画するのではなく、職員会議で子どもたちの様子や興味に合わせて進めている
- ・SDGsの取り組みを積極的に行い、子どもたちにも「未来のため、今自分たちが出来る活動」を意識的に行えるようにしている。「古着の回収・リサイクル」や「どんぐり銀行にどんぐりを預ける」「ペットボトルを回収BOX」に入れる等の活動を保護者を巻き込み取り組んでいる。

⑤ 第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年9月8日（契約日） ～ 令和3年4月19日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	初回（ 年度）

⑥ 総評

◇特に評価の高い点

1) 「楽しく食べる」を食育計画に掲げ、食事を提供しています

「年間食育計画」で目指す子ども像として「楽しく食べる」を掲げ、ホームページでは「子どもたちの健全な体と心を育て、園児の食に対する興味を促進するよう工夫を凝らします」と宣言しています。野菜についてキャラクターを作成して、子どもの野菜に対する興味を引き出す等で、残食が少なくなるという効果があります。月に1回「世界の料理」を提供し、カナダ料理ではサーモンチャウダー等を提供して、世界の食事文化の紹介をしています。栄養士は、子どもの食事場面に立ち会い、子どもが好まない食材があれば「一口でもいいから食べてね」「頑張ったね」等と、保育士と一緒に声かけをしています。

3歳以上児では、子どもが自分で適量の盛り付けを行い、完食の達成感を味わえるようにしています。家庭とは、連絡帳を活用して食事内容について情報交換をしています。

2) 環境問題を意識した取り組みを行っています

保育所では古着のリサイクルを行ったり、集めたどんぐり100個を苗木1本と交換してくれる活動に参加しています。古着は保護者間でリサイクルし、残ったものは世界の子どもにポリオワクチンを届ける活動をする団体に寄付しました。どんぐりの活動では、受け取らない苗木は落葉広葉樹林の森を再生するために植樹されます。これまで園では200個集め、1本は受け取り、もう1本は植樹してもらうことにしました。楽しく公園でどんぐり拾いしてくれる子どもたちにも、森の再生につながることを伝えています。

◇改善を求められる点

1) 事業計画書に保育所運営全般の具体的な計画の記載

保育所では、「事業計画表」に、「保育理念」「保護者との信頼関係」「保育環境の整備」について計画を策定し、毎月実施状況を評価するようにしています。しかし、保育所運営として、施設・設備管理、行事計画、地域との関わり、実習生やボランティアの受け入れ等も欠かせない事業となります。これらについても、事業計画として明確に位置づけて、計画的に取り組まれることを期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

この度は、世界中がコロナ禍にあり、制限が多い時期にも関わらず、長期に渡る調査及び評価をして頂き、ありがとうございました。

開園三年目になりましたが、まだまだ不十分さを感じながらも、しっかりとした土台作りを行いたく、受審するに至りました。」

受審により、保護者様のご意見や保育者の自己評価から、継続すべき事、改善すべき事が見えてきました。

又、多くのアドバイスを頂き、園長としての役割についても振り返ることが出来ました。今後はより一層、職員一同子どもたちの主体性を重視した保育を行い、保護者から「選ばれる保育園」になるよう日々取り組んで参ります。

園長 原川 教子

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり